

### 【基調鼎談】

**今 井 紀 明** (いまい のりあき) 認定 NPO 法人 D×P 理事長

高校生のとき、イラクの子どもたちのために医療支援 NGO を設立。その活動のため、紛争地域だったイラクへ渡航した際、現地の武装勢力に人質として拘束され、帰国後「自己責任」の言葉のもと日本社会から大きなバッシングを受ける。結果として対人恐怖症になるも、大学進学後は友人達に支えられ復帰。その後、中退・不登校を経験したユース世代と出会うことがあり、親や先生から否定された経験を持つ彼らと自身のバッシングされた経験が重なり、2012 年に NPO 法人 D×P を設立。経済困窮、家庭事情などで孤立しやすい若者が頼れる先をつくるべく、登録者 2 万人を超える LINE 相談「ユキサキチャット」で全国から相談に応じる。また大阪ミナミの繁華街で若者の居場所となる「ユースセンター」を運営しアウトリーチ事業を行うほか、ユース世代の声を聴いて伝えることを使命に、SNS などで発信を続けている。

**岩 本 菜 々** (いわもと なな) NPO 法人 POSSE 代表理事

1999 年生まれ。労働問題・貧困問題に取り組む NPO 法人 POSSE 代表理事。一橋大学大学院博士課程在籍。朝日新聞デジタル「コメントプラス」コメンテーター。

奨学金返済者 3,000 人を対象としたアンケート調査をもとに政策提言を行うほか、ホームレス状態にある若者向け相談会の運営などを通じて、若者の貧困の実態を発信してきた。現在は、年間約 600 件の生活相談に対応しながら、農地を運営し、無料の食料配布会を開催するなど、学生ボランティアとともに新たな困窮者支援のあり方を模索している。

共著に、『岩波ジュニア新書 生きるためのブックガイドー未来をつくる 64 冊ー』（岩波書店、2025 年）。主な論文に「闇バイト増加の背景にある若者の貧困と福祉の不在ー生活相談現場からの考察ー」（『Posse』 vol.59、堀之内出版、2025 年）、「私たちが『債務帳消し』を求める理由ー時間稼ぎではなく、システム・チェンジをー」（『Posse』 vol.53、堀之内出版、2023 年）など。

**岡 部 茜** (おかべ あかね) 佛教大学社会福祉学部准教授

石川県生まれ。立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。専門は社会福祉学、若者支援。若者の生活上の困難やそれを乗り越える手立てについての調査、研究や実践現場のネットワーク形成に取り組んでおり、最近では若者の住まいについての調査を進めている。

著書に『若者支援とソーシャルワーカー若者の依存と権利ー』（単著、法律文化社、2019年）、『現代のラディカル・ソーシャルワーカー岐路に立つソーシャルワーカー』（共監訳、クリエイツかもがわ、2023年）、『住む権利とマイノリティー住まいの不平等を考えるー』（分担執筆、青弓社、2025年）、『若者支援政策の現在地ーこども家庭庁／こども基本法は「若者」をどう位置づけたのかー』（共編著、明石書店、2026年）等。

### 【講座①】

**濱 田 江里子** (はまだ えりこ) 立教大学コミュニティ福祉学部准教授

上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（法学）。専門は福祉政治、若者政策。上智大学特別研究員、千葉大学特任研究員を経て、2021年4月より現職。働き方や家族の形が多様化する中で、若者の不安定な生活基盤や人間関係をはじめとする社会的なつながりの希薄化といった課題をテーマに、日本とイギリスの比較分析から政策形成の過程とその背景を研究してきた。

主な著書等に「日本の若者政策における『若者問題』ー就労支援と複合的な困難の位相ー」『アンダークラス化する若者たちー生活保障をどう立て直すかー』（分担執筆、明石書店、2021年）、「子どもの貧困対策にみるイギリスの社会的投資戦略の変遷」『社会への投資ー個人を支える、つながりを築くー』（分担執筆、岩波書店、2018）、「若者の『自立』支援とはー日本とイギリスの若者政策における能動化と承認ー」（『千葉大学法学論集』第31巻第2号、2016年）等。

**谷 口 仁 史** (たにぐち ひとし) NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事

佐賀大学文化教育学部在学中からボランティアで不登校、ニート等の状態にある子ども・若者へのアウトリーチ（訪問支援）に取り組む。卒業後「NPO スチューデント・サポート・フェイス（略称 S.S.F.）」を設立。これまで委託事業を含む約 86 万 件の相談活動、約 7 万 6,000 件のアウトリーチに携わったほか、市民活動団体を含む幅広い支援機関とのネットワークの構築や、「職親制度」など社会的受け皿の創出、執筆や講演活動を通じ、社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。

アウトリーチに関して「若年者向けキャリア・コンサルティング研究会」、「高校中退者等アウトリーチワーキンググループ」、生活困窮者自立支援法に係る「社会保障審議会特別部会」、子ども・若者育成支援推進法に係る「子ども・若者育成支援推進点検・評価会議」、こども家庭庁創設に係る「こども政策の推進に係る有識者会議」等で政府系委員も務め、全国的な取り組みの推進に貢献している。

著書等に『伴走型支援—新しい支援と社会のカタチー』（分担執筆、有斐閣、2021 年）、『ユースアドバイザー養成プログラム—関係機関の連携による個別的・継続的な若者支援体制の確立に向けて—（改訂版）』（分担執筆、内閣府、2010 年）など。

**富 永 みずき** (とみなが みずき) 認定 NPO 法人カタリバ キッカケプログラム事業部事業責任者

1995 年生まれ、神奈川県出身。幼少期から続く、自分自身の親との関係性による原体験から、教育や福祉の領域に興味を持つ。大学卒業後は教育系ベンチャー企業に入社し、中高生のキャリア教育にかかわる事業部に所属し、約 4 年間従事。2020 年の新型コロナ感染症の拡大およびそれに伴う社会の状況をうけ、「ステイホーム」によって望まずとも距離が縮まる親子の存在に課題を感じ、同年 8 月に認定 NPO 法人カタリバへ転職。子どものために家庭全体の支援をする仕組みを世の中の当たり前にしたいという思いから、キッカケプログラム事業部に配属。保護者支援プログラムの開発・運営推進を経て、地域連携や自治体連携を担当。現在は本事業の事業責任者を担う。そのほか、総務省「青少年の ICT 活用のためのリテラシー向上に関するワーキンググループ」構成員（2022～2024 年）、東京都板橋区ヤングケアラーアドバイザー（2024 年）として活動。

**フローハン 聡**（ぶろーはん さとし）一般社団法人コンパスナビ代表理事

1992 年、無戸籍・無国籍で出生。日本・フィリピン・スペインにルーツを持つ。幼少期に義父の虐待を受けて保護され、11 歳から 19 歳まで東京都の児童養護施設で過ごした経験が、児童虐待や社会的養護などをめぐる社会課題へ強い意識を持つ原点となった。2024 年に映画「花束」（サヘル・ローズ監督）にキャストとして出演し、現在は、年間 80 本以上の講演や児童養護施設出身者 3 人による YouTube 番組「THREE FLAGS—希望の狼煙—」を通じて、虐待や貧困を経験した子どもたちへの希望のメッセージを発信している。また、こども家庭庁審議会委員として政策提言を行い、一般社団法人コンパスナビ代表理事として社会的支援を必要とする子ども・若者の伴走支援に注力。

著書『虐待の子だった僕—実父養父と母の消えない記憶—』（単著、さくら社、2021 年）に自身の体験を綴り、多様な背景を持つ若者の声を社会に届けている。このほか、『My Voice, My Life 届け！社会的養護当事者の語り』（全国社会福祉協議会、2022 年）にインタビュー掲載、分担執筆に『岩波ジュニアスタートブックス 支える、支えられる、支え合う』（岩波書店、2021 年）。

## 【講座②】

**阿比留 久 美**（あびる くみ）早稲田大学文学学術院教授、一般社団法人若者協同実践全国フォーラム共同代表

社会教育と福祉とを架橋し、子ども・若者の「居場所」をキーワードにしながら、子ども・若者が大人へと移行していくプロセスを支えていくことのできる関係性や場所とはどのようなものなのかを考えている。最近では、多様な「自立」のかたちや、若者が試行錯誤しながら大人になっていくことが可能な社会づくりに関心がある。研究テーマは社会教育、青年期教育、移行期、若者支援、子ども・若者の「居場所」。博士（文学）。主な著作に『若者支援政策の現在地—こども家庭庁／こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか—』（分担執筆、明石書店、2026 年）、『孤独と居場所の社会学—なんでもない“わたし”で生きるには—』（単著、大和書房、2022 年）、『子どものための居場所論—異なることが豊かさになる—』（単著、かもがわ出版、2022 年）、『若者の居場所と参加』（共著、東洋館出版社、2012 年）など。

## 傳 田 清（でんだ きよし）社会福祉法人長野県社会福祉協議会わかさぽ Base 生活相談員

1974 年長野県中野市生まれ。長野大学社会福祉学部社会福祉学科卒業後、児童養護施設で約 10 年間勤務。現在は社会福祉法人長野県社会福祉協議会わかさぽ Base の生活相談員として、児童養護施設出身者をはじめとする若者の自律や生活に関する支援に取り組む。また、親の支えのない若者が安心して頼ることのできる地域をつくることを目指す「どこでも実家宣言」を立ち上げ、県内各地の社会福祉協議会や関係機関と連携し、地域やエリアを越えて若者を支えるネットワークづくりを進めている（現在、県内 77 社協のうち 43 社協が参画）。あわせて、特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州事務局長、非営利団体信州 G プロジェクト代表、長野県中野市ボランティア連絡協議会会長を務め、こども食堂、訪問カフェバン、駄菓子屋を展開するほか、家電バンク・フードバンク事業や居場所支援、居住支援等に携わり、地域全体で若者を支える仕組みづくりを実践している。

## 平 井 登 威（ひらい とおい）NPO 法人 CoCoTELI 理事長

2001 年 8 月静岡県浜松市生まれの 24 歳。精神疾患の親をもつ子ども・若者支援を行う NPO 法人 CoCoTELI 理事長。幼稚園年長時に父親がうつ病になり、名前のつかない困難や虐待を経験、ケアラーとして情緒的ケアも行う。14 年間打ち込んだサッカーや叔母のおかげで元気に育つ。2020 年 4 月にコロナ禍のもと大学に入学。精神疾患の親をもつ子どもの立場の人との初めての出会いをきっかけに学生団体としての CoCoTELI 立ち上げメンバーとなりすぐに代表となる。2023 年 4 月に大学を休学、5 月に CoCoTELI を NPO 法人化。2025 年 4 月には大学に復学し事業と学業を並行。2026 年 3 月に大学を卒業した後、精神疾患の親をもつ子ども・若者支援の土壌をつくるため、NPO 法人 CoCoTELI に専業でコミットしている。

ForbesJAPAN 30 UNDER 30 2024「世界を変える 30 歳未満」30 人に選出。

## 松 田 考（まつだ こう）一般社団法人ソーシャルペダゴギーネット代表理事

一貫して現場で困難を抱える若者や家族の相談に応じながら、さっぽろ子ども・若者支援地域協議会の立ち上げに参画し、行政機関・学校・民間団体のネットワーク構築を進めてきた。2020 年 6 月より子ども若者の居場所「いとこんち」を設立し、地域社会による子育て（ソーシャル・ペダゴギー）に取り組んでいる。こども家庭庁こども・若者支援体制整備及び機能向上事業アドバイザーやこども家庭審議会こどもの居場所部会等に委員として関わる。

著書等に『若者の貧困・居場所・セカンドチャンス』（分担執筆、太郎次郎社エディタス、2015 年）、『ユースワークとしての若者支援一場をつくる・場を描くー』（分担執筆、大月書店、2023 年）。

## 【記念講演】

**水 谷 修**（みずたに おさむ）水谷青少年問題研究所所長

1956 年、神奈川県横浜市に生まれる。横浜市にて、高校教員として長く勤務。12 年間で定時制高校で過ごす。教員生活のほとんどの時期、生徒指導を担当し、中高生の非行・薬物汚染・心の問題に関わり、生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の拡大の予防のための活動を精力的に行っている。また、若者たちから「夜回り」と呼ばれている深夜の繁華街のパトロールを通して、多くの若者たちとふれあい、彼らの非行防止と更生に取り組んでいる。一方で、全国各地からのメールや電話による様々な子どもたちからの相談に答え、子どもたちの不登校や心の病、自殺などの問題に関わっている。その現場での経験をもとに、専門誌や新聞、雑誌への執筆、テレビ、ラジオなどへの出演、日本各地での講演などを通して、子どもたちが今直面している様々な問題について訴えている。

専門分野は、哲学・宗教学・心理学・精神医学・薬学。

主な著書に『壊されゆく子どもたち一夜回り先生の青少年問題論一』（日本評論社、2019 年）、『新編 夜回り先生』（鳳書院、2025 年）。